

子どもの発言と授業風景メモ

絵本『青いかいじゅうと赤いかいじゅう』と情報モラル理解

碧南市立西端小学校 3年3組

指導者 齊藤 由佳里先生

実施日 平成19年11月22日

先生：「まずは、みんながいつも書いてくれている日記を少し読みます。誰が読まれるかな～？」

先生：『おねえちゃんとけんかしたこと』

児童：「だれだあ？」

先生：「わかつちやったかなあ？じゃ、読むよ。」

(先生が読んだ内容)

・お兄ちゃんの投げたボールが僕に当たった。もうお兄ちゃんとドッジボールはやらない。

・妹とけんかしたよ。妹を泣かしました。妹が僕のものを取ったからです。

といった、児童の身近なもめごとを書いた日記を3人分紹介。

(先生が授業後言ってみえたことは、「いきなりよりは、少し自分達のことを振り返ってから始めようと思いました」とのこと。)

先生：「今日の勉強は・・・さあ、何でしょう」(黒板に茶色の紙で作った大きな山を貼る)

児童：「くしゃくしゃ～」

「山！」

「ロケット」

「岩山」

「岩山の草ぼうぼうの山」

先生：「この山が主人公ではありませんよ～」

紙の山の左側に「青いかいじゅう」と書いた紙を貼る。

先生：「青いかいじゅう」

児童：「青いかいじゅう」(一斉に)

紙の山の右側に「赤いかいじゅう」と書いた紙を貼る。

先生：「赤いかいじゅう」

児童：「赤いかいじゅう」（一斉に）

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（このあたりで7分経過）

先生：「では、こんな絵本を・・・」

絵本を見せながら『青いかいじゅうと赤いかいじゅう』を途中まで読む。

穴が開いていて、それを通じて話しているとする設定のシーンまで（p5）で止める。

先生：「さあ、お互いは顔が分かっていたのかな？」

児童：「わからない」

「声しかわからない」

先生が、ゴロゴロとパーテーションを教室に運び込んでくる。

児童は「なんだなんだ？」といったおもしろがっている様子。

教室の真ん中を境に、向かい合わせになるよう机の向きを変えるよう指示。

先生：「ご対面～」

先生：「でも、いつもは仲がいいけど、今日だけは別れてくださ～い。さようなら～」

向かい合う真ん中の線上に、パーテーションを立てる。

（絵本で描かれている「山」を、パーテーションに置き換えた状態）

児童：「さようなら～」（手を振りながら）←わあわあとすごい盛り上がり

先生：左側半分の児童に向かって「さて、こちらは青いかいじゅうさんです。」

右側半分の児童に向かって、「こっちは昼寝っ！！」（きゅーきゃー言いながらバタッと机に伏せる）

左側にだけ見えるよう、青いかいじゅうの絵をパーテーションに貼る。

左側の児童：「え～～！」

先生：右側の児童に「こちらは赤いかいじゅうさんです。」

左側の児童に向かって、「こっちは昼寝っ！！」（またきゃーきゃー言って伏せる）

右側だけに見えるよう、赤いかいじゅうの絵をパーテーションに貼る。

右側の児童：「ええ～～！！」

青いかいじゅうチームに赤い紙、赤いかいじゅうチームに青い紙を配る。

(・・・・・・・・・・・・・・・・このあたりで15分ほど経過)

先生：「さあ、相手が見えないね～。相手を想像して描いてみてください。かいじゅうだから、似ているかもしれないよ。」

児童：「え～」

先生：「大丈夫。ヒントがあります。」

それぞれに、自分の姿の描写を書いた紙を、自分達だけに見えるように貼る。

(絵本の中に書いてある描写。「私のあたまには、金色のとさか。鼻の上には・・・」等。)

それをそれぞれのチームごとに唱和。

「わたしのあたまには きんいろのとさか・・・・」他

その声だけを聞いて、お互いを想像する。

3分間、お互いの姿を想像して児童が紙に絵を描く。

先生：「相手に質問してみたいことがある人～」

(たくさんの挙手)

児童A：「とさかって何ですか？」

児童B：「にわとりについている赤いツノみたいなものです」

児童C：「赤いかいじゅうさんのからだの太さはどのくらいですか？」

児童D：「ぶたみたいにデブだよ」

児童E：「青のかいじゅうさんのからだの太さはどのくらいですか？」

児童F：「ぶたみたいですよ」

児童G：「しっぽはありますか？」

児童H：「ありません」(ええ～書いちゃったよお～、の声多数。)

児童I：「キバはありますか？」

児童J：「ありません」(えええ～～、の声)

児童K：「ツノはありますか？」

児童L：「ありません」(えええええ～～～、の声)

質問を聞きながら、児童はどんどん描き直している。

先生：「途中でもいいので、みんな貼ってください。」

自分の側のパーテーションに、セロテープで、描いた絵を各自貼る。

(・・・・・・・・・・・・・・・・このあたりで 22 分経過)

先生：「どんな感じになったのかは、後のお楽しみですね。」

「お話の続きを読みます。」

絵本の続きを読む。お互いが誤解をして、けんかになる。言葉もきたなくなり、「ばかねえ」

「ねぼすけめ」など言い合うようになるところ (p 14) まで。

青と赤のそれぞれのチームで、相手に向かってそのセリフを唱和する。(先生に続いて)

青に向かって赤全員で「ばかねえ、できもしないことを言うんじゃない」

赤に向かって青全員で「フン、えらそうなことばかり言って、もうおこったぞ」「起きろ。

ねぼすけめ」

青に向かって赤全員で「あんたって言葉使いも知らないのね」など。

児童はみんな演技力たっぷりに乗っている。

先生：「今、相手のことをどう思っていますか？どんな気持ち？」

児童：「ムカツク～!」

「なんじゃと～テメエ～」

「だまっとれ～」

「できないことを無理いわないでよお」

先生：「さて、実は青いかいじゅうさんは、こんな顔です」

「赤はこんな顔です」

パーテーションに貼ってあったかいじゅうの紙を黒板にそれぞれ貼る。

児童：「似てるや～」

「なにそれ～」

先生：「では、絵本の続きを読みます。遠くの子は近くに見に来てもいいからね。」

(・・・・・・・・・・・・・・・・このあたりで 35 分ほど経過)

絵本を見せながら最後まで読みきる。

パーテーションを後ろに片付け、机の向きを前向きに直す。

先生：「この二人は、ケンカしない方法はなかったのかな？」

児童：「ある！」

先生：「どうすればケンカにならなかったと思う？」

児童：「悪口を言わなければケンカにならなかった」

先生：「さて、ここでね。先生が失敗したお話を聞いて欲しいんだけど・・・。」

先生：「先生には友だちがいます。」

児童：「いくつ～？」

先生：「それはひみつ。」

先生：「連絡するときに、あるものをよく使います。」

携帯電話を持ったり、メールをしたりするジェスチャーをする。

児童：「携帯電話～」

「電話～」

「メール～」

先生：「そうです。一緒にごはんが食べたいな～と思って、こんなメールを友だちに送ったんです。」

黒板に紙を貼る。

07/11/02 22:13

〇〇 〇〇子

あしたのこと

あした、午後7時

えびすや

よろしくね。

先生：「そうしたら、返事が来ました。」

07/11/03 09:45

斉藤 由佳里

Re: あしたのこと
と

あしたの午後7時

えびすや

オッケーです。

楽しみにしています。

先生:「そうして、とっても楽しみにしてね。11月3日の午後7時にえびすやさんで待っていました。でも、待っても待ってもちっとも来ません。何回か電話しても通じません。結局食事はあきらめて、先生は一人で帰りました。」
「先生の友達は どうして来なかったんだろう？」

「その答えは、実はここにあるんです。」

メールの紙を指差す。

先生:「先生はどうすれば良かったのかな？」

児童:「あ、あしたが違う！」

「日にちにすれば良かった」

「友だちがもっと早く見れば良かった」

「今日、と言えば良かった」

先生:「今日はね。離れている友達のことを勉強しました。どういうことに気をつけなきゃいけないのか、思ったことを紙に書いてください。」

紙を配る。

児童:「書けた～」

「書けない～」

「あんまり人の悪口を言わない方がいい」

先生：「あんまりですか？」

児童：「絶対に人の悪口は言わないほうがいい」

先生：「では、これで終了です。」

【授業後の先生の感想】

- ・相手のことを想像する、という体験は喜んでやっていたようだ。
- ・それぞれのかいじゅうを想像して絵を描くところで盛り上がってしまい、時間が過ぎて、最後にメールの話と結びつけるのに時間が足らなかった。内容的に盛りだくさんだったようで、絵を描くところまでで1時間として、2回に分けて行っても良かった。